

甲状腺外科草子 56

飛行機嫌いの名機探訪：松山

杉野 圭三

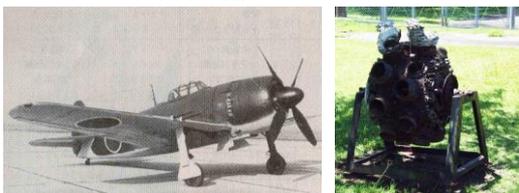
愛媛県の人々は松山市に旧日本海軍の航空基地があったことを意外と知らない。その筋の人々には有名な**第三四三航空隊**である。



「四国周辺の戦争遺跡」より 愛南町紫電改展示館

太平洋戦争末期には無敵のゼロ戦神話も崩れ、マリアナ沖航空戦では「マリアナの七面鳥撃ち」と揶揄されるほどの大敗北を喫することとなった。

川西航空機の開発した「紫電」の欠点を改良した「紫電改」は昭和20年1月に正式採用された。大出力の発動機、強武装、優れた操縦性から日本海軍最強の戦闘機とされる。



紫電改と誉発動機 (1977年日向灘で発見、鹿屋基地展示)

航空参謀の**源田実大佐**は劣勢挽回のため優秀な士官とパイロット達を松山基地に集め紫電改による部隊を編成した。

昭和20(1945)年3月19日の**九州沖航空戦**では紫電7機と紫電改56機で米艦上機160機を迎撃し58機を撃墜する戦果を挙げ、米軍に恐れられた。



源田実司令 志賀淑雄飛行長 菅野直大尉 林喜重大尉

日本海軍航空隊が最後に見せた意地と活躍はマンガや小説、映画にもしばしば取り上げられ、小生も子供の頃から親しんできた。



戦果を挙げた部隊だが、連戦による優秀な搭乗員と機体の損失を補充できる国力は失われ、三四三空にも特攻の打診が来た。



三四三空隊員、新選組



同天誅組



同維新隊

その時、志賀淑雄飛行長は「私が先頭で行きます。兵学校出は全て出すが、予備士官は出さない。条件として、命令してきた上級司令部参謀が最初に私と来るならやります」と伝えた。それ以降は特攻の話が来なくなったという。特攻命令は海軍兵学校出身者に来ることは少なく、予備士官に来ることが多かったという。

参考資料：

宮崎勇、帰ってきた紫電改、光人社NF文庫

碓義朗、紫電改、紫電改の六機、光人社NF文庫

愛南町紫電改展示館

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2022年2月15日